

全数及び定点(週単位報告)把握対象疾患

2006年45週

- 発生動向の概況
- 定点医療機関からのコメント
- 全数把握対象疾患 患者報告数
- 五類定点把握対象疾患 患者報告数
 - 男女別
 - 推移グラフ
 - 保健所別
 - 保健所別(定点当たり)
 - 年齢階級別
- 病原体・抗体検査情報
 - 週別検出状況
 - 臨床診断名別検出結果

東京都医師会感染症予防検討委員会

事務局:東京都健康安全研究センター疫学情報室

電話:03-3363-3213(直通)

FAX:03-5332-7365

e-mail: idsc@tokyo-eiken.go.jp

アドレス: idsc.tokyo-eiken.go.jp/



全数及び定点(週単位報告)把握対象疾患

発生動向の概況 《2006年45週》

(全数把握対象疾患)

区分	疾患	報告 件数	情 報 (検出病原体・血清型・推定感染経路等)	推定感染地
三類	腸管出血性 大腸菌感染症	3	O157 VT2 1件	国内
			O157 VT1・VT2 1件	
			O157 VT型不明 1件	
			推定感染経路:経口感染 2件、不明 1件	
四類	E型肝炎	1	推定感染経路:経口感染	国内
五類	アメーバ赤痢	6	腸管アメーバ症 5件、 腸管外アメーバ症 1件 推定感染経路:経口感染 4件、不明 2件	国内 4件、 インドネシア 1件、 モンゴル 1件
	急性脳炎	1	病原体:不明	国内
	後天性免疫不全 症候群	22	無症候性キャリア 17件、AIDS 4件、その他 1件 推定感染経路:性的接触(同性間 17件、 異性間 4件、性別不明 1件)	国内 19件、 国外(地域不明) 3件
	ジアルジア症	2	推定感染経路:異性間性的接触 1件、 不明 1件	国内
	梅毒	5	無症状病原体保有者 2件 早期頭症梅毒 2件(I期 1件、II期 1件) 晚期頭症梅毒 1件 推定感染経路:性的接触(同性間 2件、 異性間 2件、性別不明 1件)	国内 4件、 フィリピン 1件
	バンコマイシン耐性 腸球菌感染症	2	症状:発熱、菌血症 診断方法:分離菌からの耐性遺伝子の検出 van遺伝子型:VanA型 1件、VanC型 1件 推定感染経路:接触感染	国内

(推定される感染地は医師の届出によるものです)

※後天性免疫不全症候群22件のうち、11件は報告遅れ分である。

(定点把握対象疾患 ー小児科・インフルエンザ・眼科・基幹定点ー)

- ・感染性胃腸炎の報告数は、例年と比べ2~3週早く増加している。
- ・マイコプラズマ肺炎の報告数が依然として多い。

(検査情報)

臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
急性咽頭炎	5	咽頭拭い液	エンテロウイルス	遺伝子
急性咽頭炎	3	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
急性咽頭炎	8	咽頭拭い液	マイコプラズマ・ニューモニア	
急性咽頭炎、不明発疹症	1	咽頭拭い液	パラインフルエンザウイルス2型	
咽頭炎	3	咽頭拭い液	エンテロウイルス、 RSウイルス	
インフルエンザ疑い、上気道炎	3	咽頭拭い液	マイコプラズマ・ニューモニア	

臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
急性気管支炎	2	咽頭拭い液	RSウイルス	遺伝子
急性気管支炎	17	咽頭拭い液	マイコプラズマ・ニューモニア	
急性気管支炎、紫斑病	1	咽頭拭い液	EBウイルス	
肺炎	12	咽頭拭い液	マイコプラズマ・ニューモニア	
熱性けいれん、咽頭炎	1	咽頭拭い液	アデノウイルス、 エンテロウイルス、 ヒトヘルペスウイルス6型	
感染性胃腸炎	11M	糞便	エンテロウイルス	
胃腸炎、けいれん	2	糞便	ノロウイルス	
胃腸炎、けいれん	1	糞便	ノロウイルス	
胃腸炎、けいれん	1	糞便	ノロウイルス	
下痢、けいれん	1	糞便	ノロウイルス	
嘔吐下痢症	3	糞便	ノロウイルス	
手足口病	2	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
水痘、喘息発作	3	咽頭拭い液	アデノウイルス、 水痘-帯状疱疹ウイルス	
伝染性紅斑	3	咽頭拭い液	パルボウイルスB19	
頸部リンパ節炎	5	咽頭拭い液	マイコプラズマ・ニューモニア	
流行性角結膜炎	25	結膜拭い液	アデノウイルス	
急性頸部リンパ節炎	6	糞便	エコーウイルス25型	分離*
急性胃腸炎	1	糞便	ポリオウイルス3型	

* 遺伝子検査で既に報告済みの検体を含む

腸管出血性大腸菌 菌株検査情報

血清型	産生毒素			合計
	VT1	VT2	VT1・VT2	
O157		1		1

ウイルス性胃腸炎(集団事例)検査情報

検査区分	検査試料数	陽性数	ノロウイルス		サポウイルス	ロタウイルス
			G I	G II		
施設内感染疑いまたは食中毒等	147	79	0	79	0	0

定点医療機関からのコメント

大田区保健所

- ・一保育園にて、ウイルス性胃腸炎が多発している。

多摩小平保健所

- ・マイコプラズマ肺炎が発生した(9歳・女1名)。
また、感染性胃腸炎が各年齢層で多く発生している。
- ・下痢の患者が多くみられている。

全数把握対象疾患 患者報告数 2006年45週

分類	疾病名	東京都分(報告週)					全国分(診断週)	
		42週	43週	44週	45週	年累計	45週	年累計
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	重症急性呼吸器症候群							
	痘そう							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二類	急性灰白髄炎							
	コレラ					8		46
	細菌性赤痢	3	1	2		58	5	435
	ジフテリア							
	腸チフス		1			17	2	66
	パラチフス					11		22
三類	腸管出血性大腸菌感染症	6	2	5	3	252	35	3575
四類	E型肝炎				1	4	1	59
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎					26		300
	エキノкокクス症					1		18
	黄熱							
	オウム病					4		19
	回帰熱							
	Q熱							1
	狂犬病							
	高病原性鳥インフルエンザ							
	コクシジオイデス症	1				1		2
	サル痘							
	腎症候性出血熱							
	炭疽							
	つつが虫病						15	212
	デング熱					14		50
	ニバウイルス感染症							
	日本紅斑熱						1	41
	日本脳炎							7
	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	ブルセラ症					1		5
	発しんチフス							
	ボツリヌス症							2
マラリア			1		14		54	
野兎症								
ライム病					2		11	
リッサウイルス感染症								
レジオネラ症		1			54	4	439	
レプトスピラ症					4	3	23	
五類 (全数届出)	アメーバ赤痢	1	2	2	6	163	8	645
	ウイルス性肝炎(A型・E型を除く)	1	1	1		31	7	246
	急性脳炎				1	6		139
	クリプトスポリジウム症					5		15
	クロイツフェルト・ヤコブ病		2	2		18	2	150
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症			1		13	1	96
	後天性免疫不全症候群	6	12	3	22	390	12	1135
	ジアルジア症		2	1	2	26	1	79
	髄膜炎 菌性髄膜炎					1		12
	先天性風しん症候群							
	梅毒	2	3	4	5	118	6	538
	破傷風					7		103
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	2	1		2	17	2	63

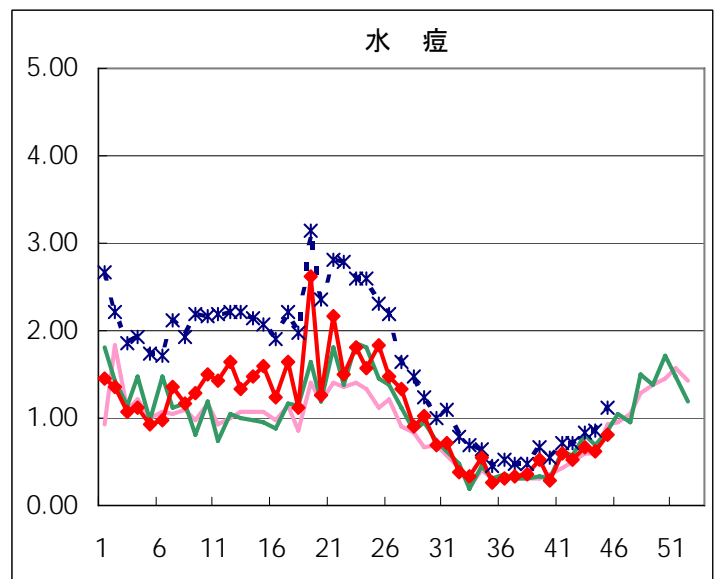
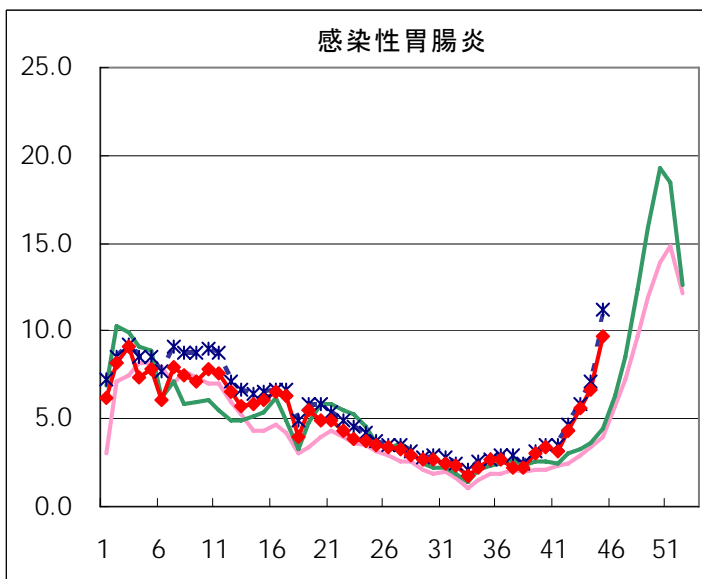
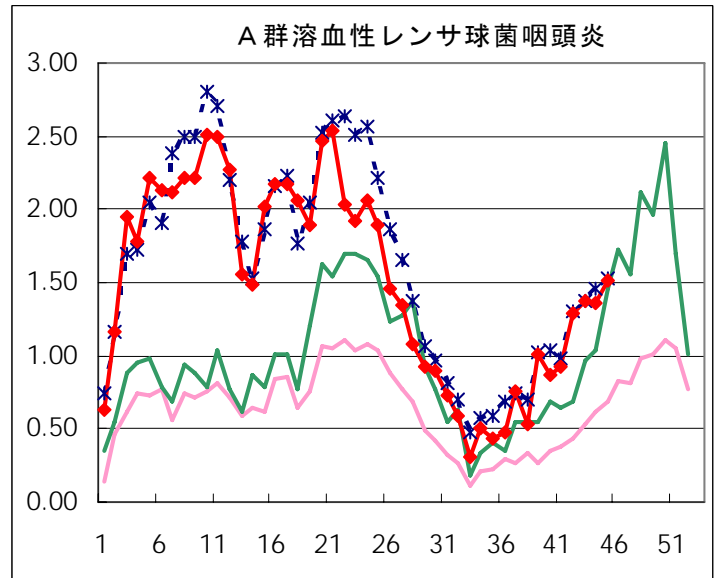
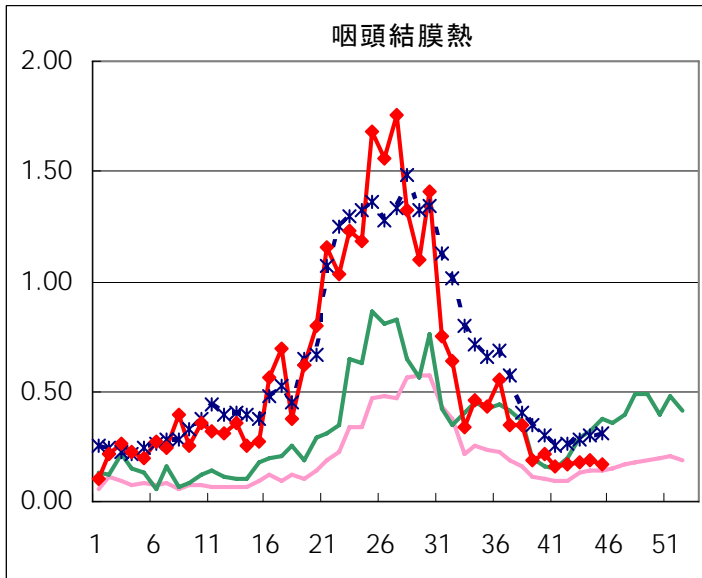
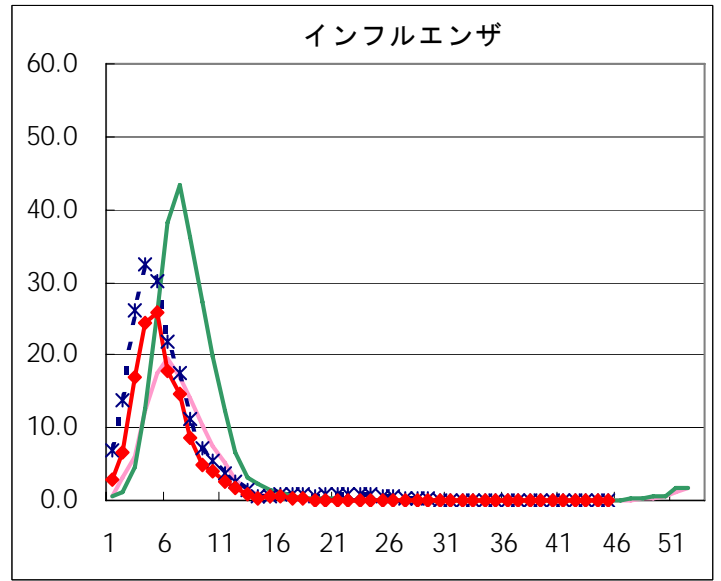
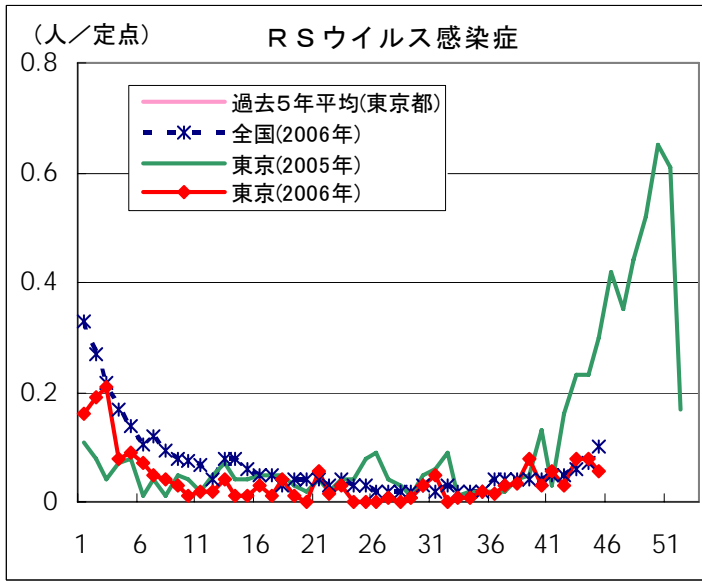
2006/11/15集計

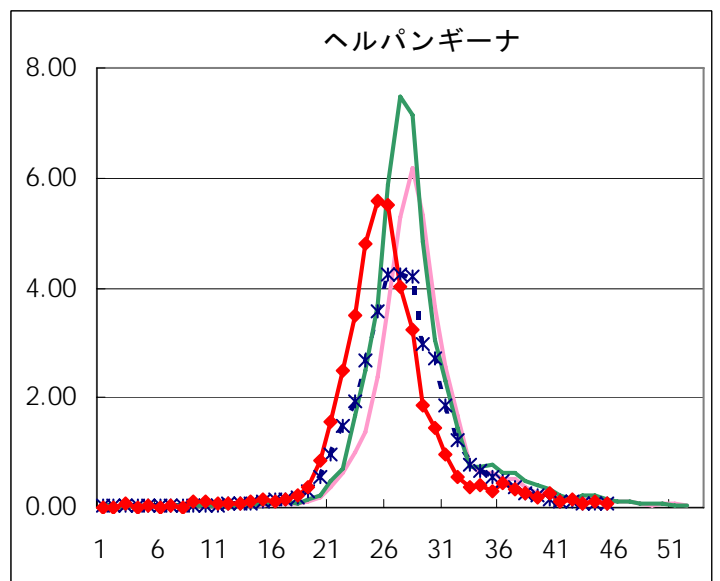
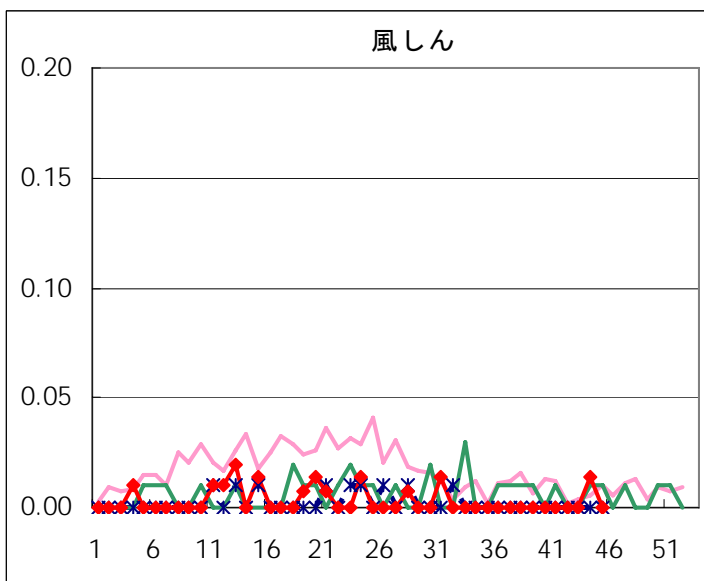
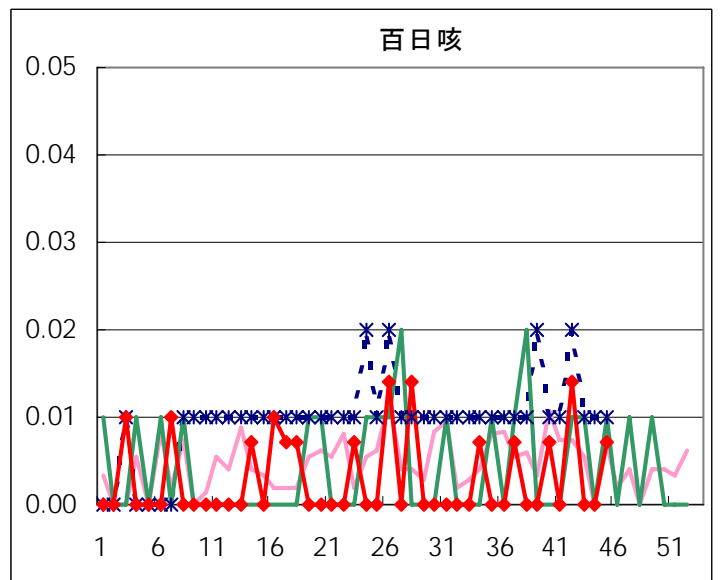
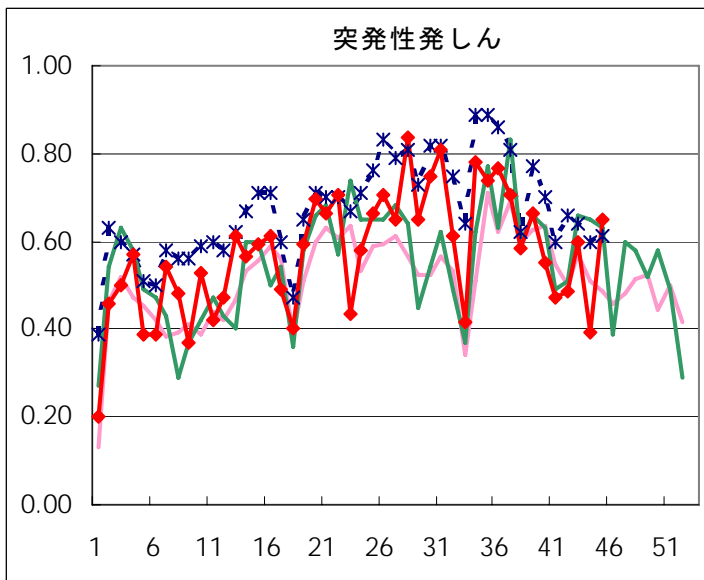
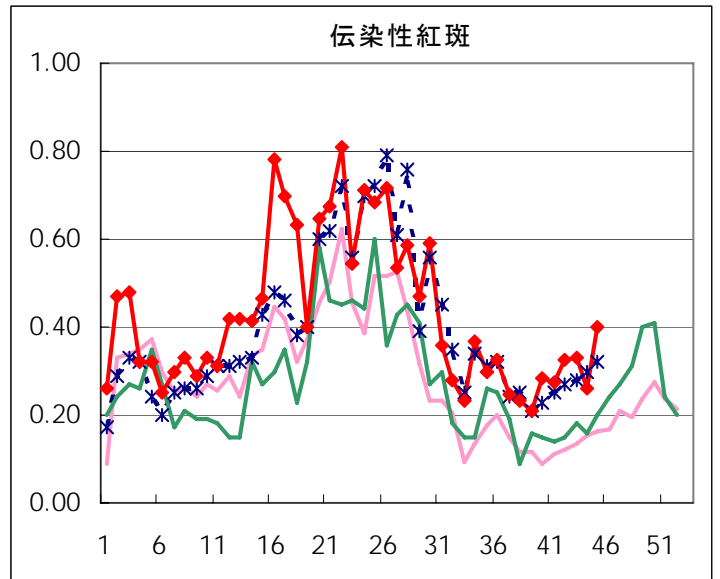
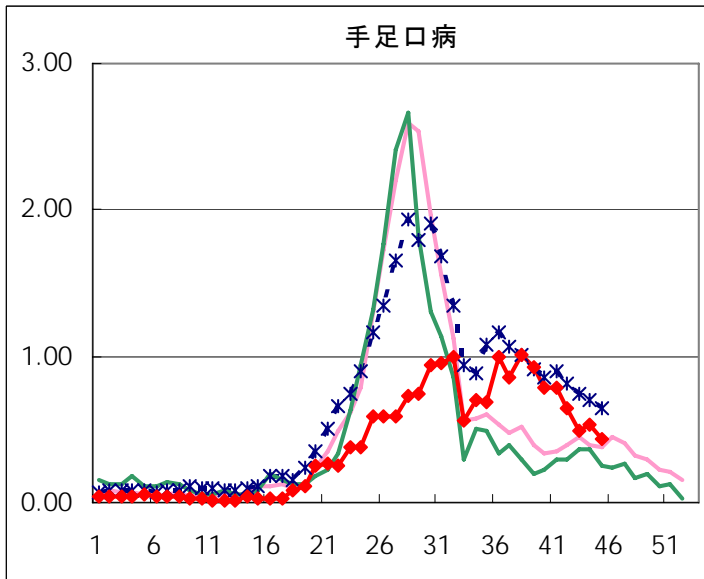
五類定点把握対象疾患 患者報告数【男女別】 2006年45週

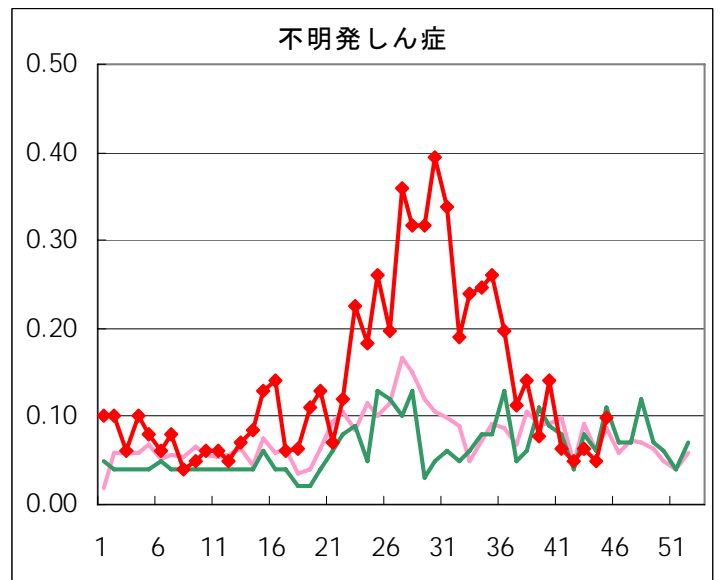
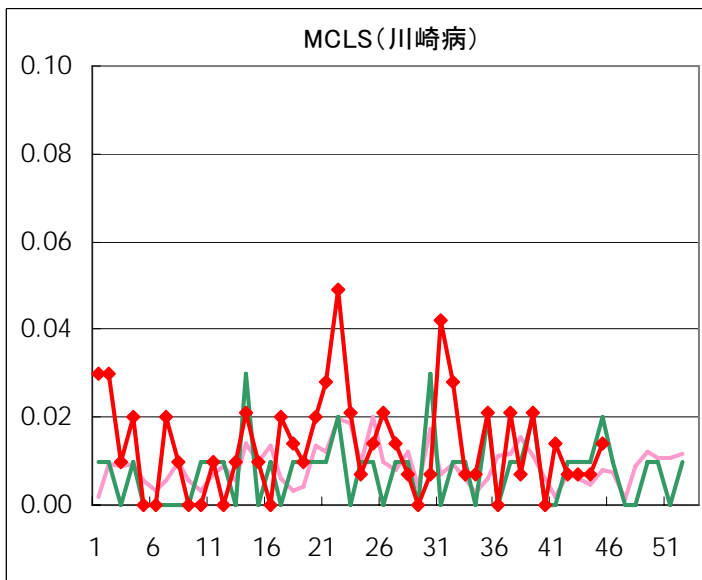
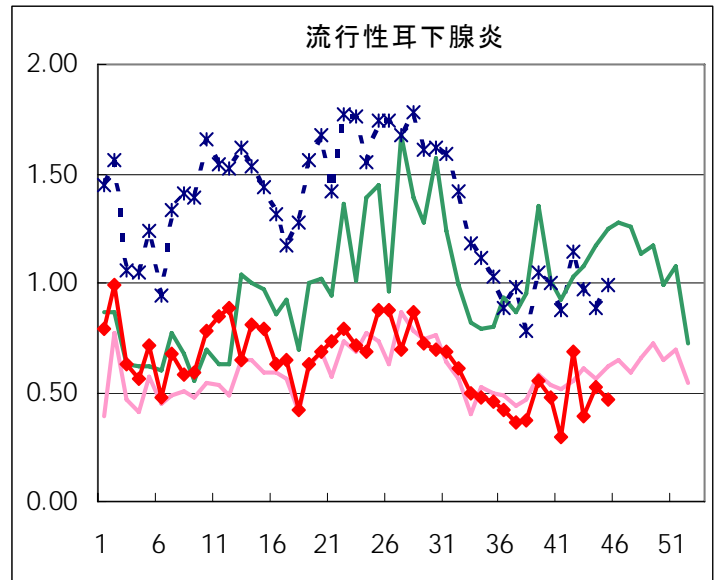
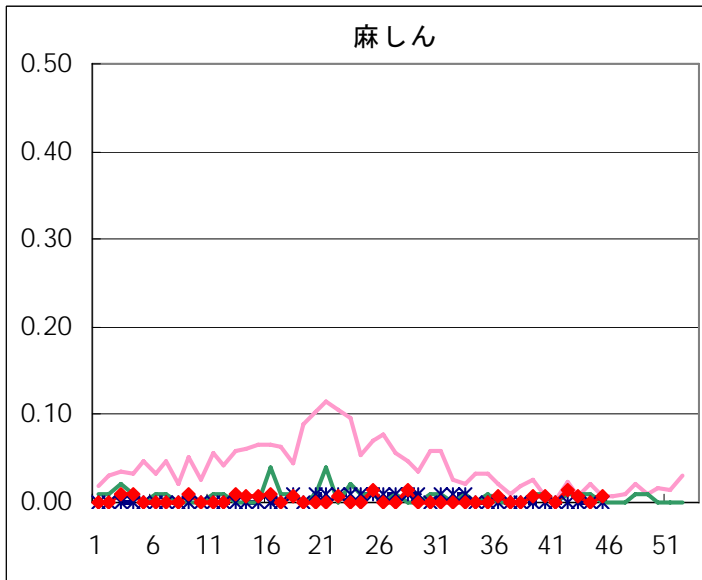
疾病名	性	2006年				4週合計	年累計
		42	43	44	45		
RSウイルス感染症	男	2	7	5	6	20	154
	女	2	4	6	2	14	109
インフルエンザ	男						12,056
	女						11,871
咽頭結膜熱	男	14	14	14	18	60	1,967
	女	10	12	13	6	41	1,680
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	男	98	106	96	115	415	5,187
	女	85	89	98	100	372	4,523
感染性胃腸炎	男	321	407	487	721	1,936	16,612
	女	288	381	454	678	1,801	15,144
水痘	男	38	48	52	59	197	3,668
	女	35	47	37	57	176	3,317
手足口病	男	49	34	40	39	162	1,396
	女	43	35	35	23	136	1,130
伝染性紅斑	男	24	18	19	22	83	1,361
	女	22	29	18	35	104	1,380
突発性発しん	男	32	35	27	50	144	1,908
	女	37	50	29	42	158	1,751
百日咳	男	1			1	2	11
	女	1				1	7
風しん	男						9
	女			2		2	11
ヘルパンギーナ	男	10	4	11	8	33	3,036
	女	12	6	6	1	25	2,822
麻しん(成人麻しんを除く)	男	1	1		1	3	16
	女	1				1	5
流行性耳下腺炎	男	50	23	41	36	150	2,148
	女	47	32	34	33	146	1,945
不明発しん症	男	4	5	4	6	19	463
	女	3	4	3	8	18	435
MCLS	男	1	1		1	3	46
	女			1	1	2	42
急性出血性結膜炎	男						6
	女						2
流行性角結膜炎	男	4	3	2	6	15	243
	女	4	4	4	7	19	205
細菌性髄膜炎	男	1				1	9
	女						4
無菌性髄膜炎	男		1		2	3	25
	女			1		1	8
マイコプラズマ肺炎	男	7	8	6	10	31	95
	女	7	4	9	4	24	86
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	男	1			1	2	5
	女				3	3	5
成人麻しん	男						
	女						

五類定点把握対象疾患 患者報告数【推移グラフ】 2006年45週現在

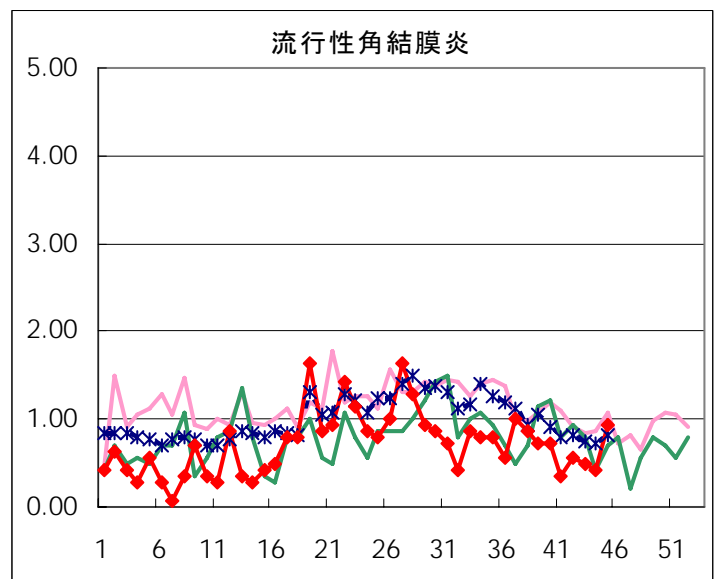
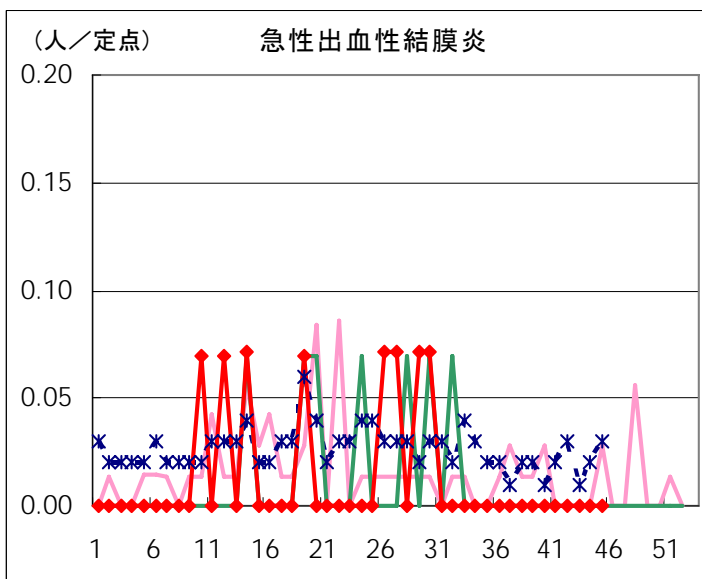
◆ 小児科・インフルエンザ定点



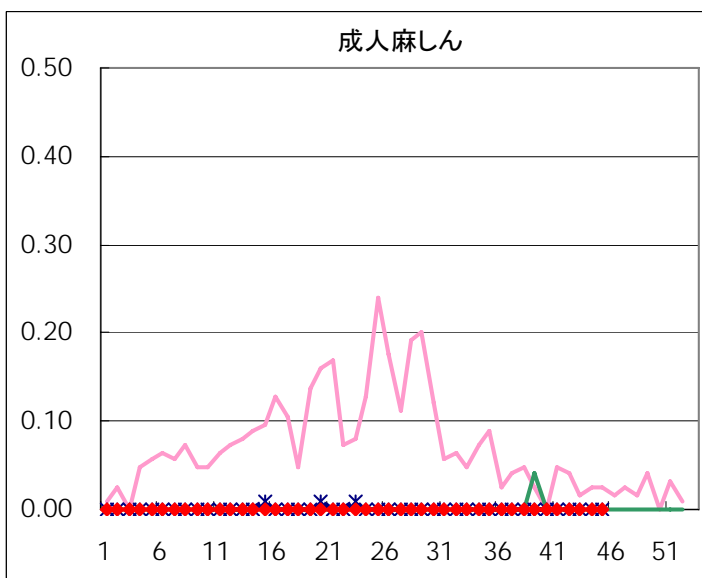
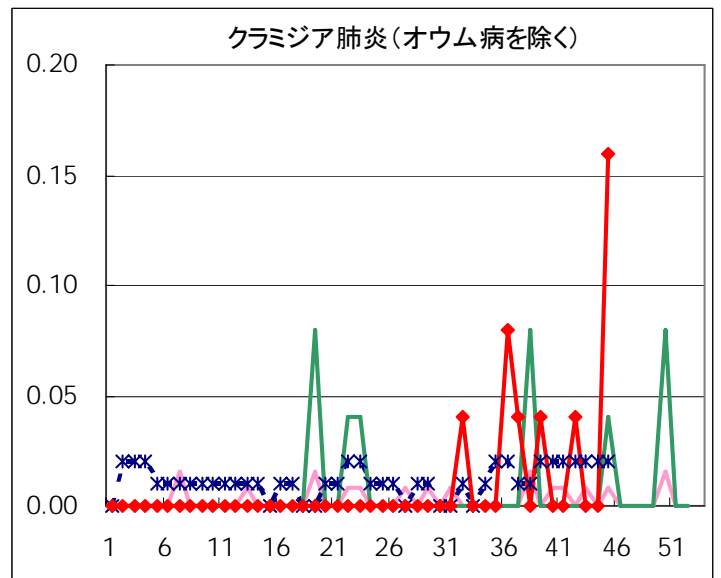
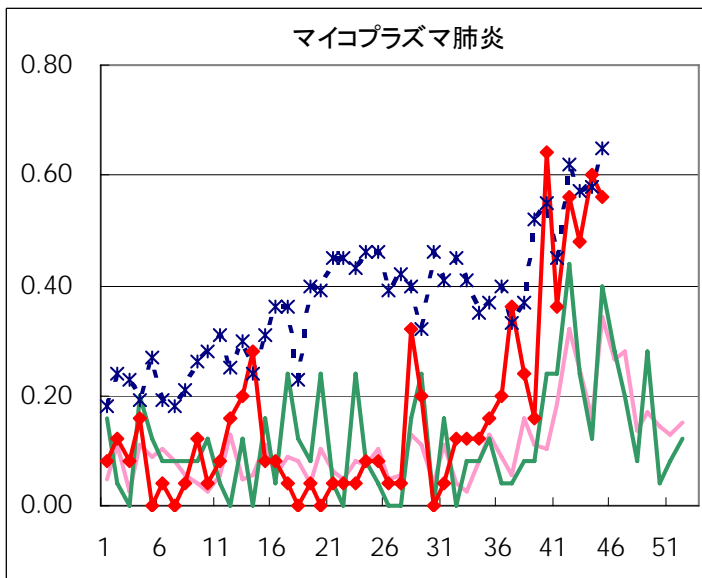
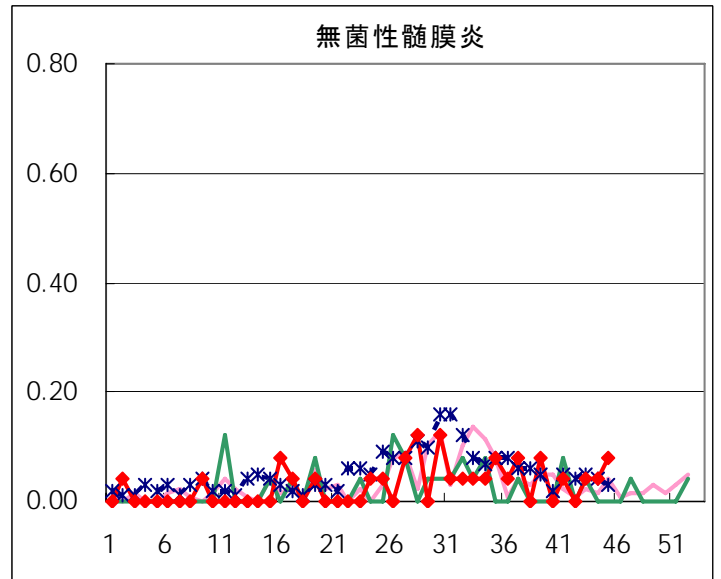
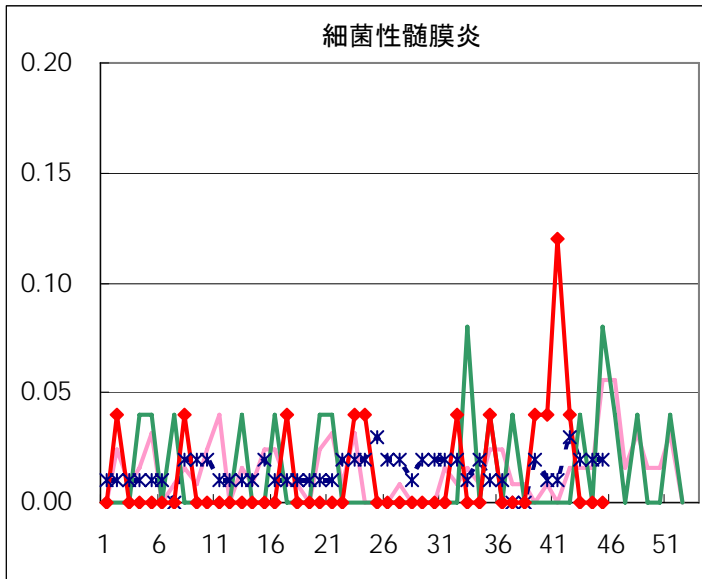




◆ 眼科定点



◆ 基幹定点



疾患別の定点医療機関数(週単位報告分)		
定点種別	疾患	医療機関数
インフルエンザ	インフルエンザ	178
眼科	急性出血性結膜炎	14
	流行性角結膜炎	
基幹	急性脳炎	25
	細菌性髄膜炎	
	無菌性髄膜炎	
	マイコプラズマ肺炎	
	クラミジア肺炎	
	成人麻しん	
小児科	上記を除く疾病	142

五類定点把握対象疾患 患者報告数【保健所別】2006年45週

	RS ウイルス 感染症	インフルエ ンザ	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳
千代田					3	1		3		
中央区					10		6			
みなと			4	14	32	2				
新宿区				1	29	13	2		3	
文京				1	21			2		
台東	1		1	2	36	4	4	1	2	
墨田区				7	38	1		1	3	
江東区				4	51		2		7	
品川区	1		1	9	114	5	2	3	4	
目黒区				3	10	2		1	2	
大田区			3	20	139	7	4	1	4	
世田谷				2	63	6	1	7	4	
渋谷区					39	4	1	2	3	
中野区				15	49	1	5		2	
杉並			5	15	68	3	1	2	2	
池袋					6			1	1	
北区			2	8	36	4		1	5	
荒川区			1	4	30		2	2	1	
板橋区				2	39	1	4		4	
練馬区				17	24	3	4	3	8	
足立					18	7	5		2	
葛飾区				1	31	10	4	3	9	
江戸川	2			34	67	2	3	3	2	
西多摩				5	85	7	1	4	4	
八王子	1			7	49	2	2	4		
南多摩				3	44		2	2	2	1
町田				13	62	9	2		2	
多摩立川				1	34	7	1			
多摩府中				8	35	7	3	2	7	
多摩小平	3		7	9	137	8	1	9	9	
島しょ				10						

東京都合計	8	-	24	215	1,399	116	62	57	92	1
定点当り報告数	0.06	-	0.17	1.51	9.85	0.82	0.44	0.40	0.65	0.01

五類定点把握対象疾患 患者報告数【保健所別】 2006年45週

	風しん	ヘルパン ギーナ	麻疹 (成人麻疹 を除く)	流行性 耳下腺炎	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	不明 発しん症	MCLS	合計
千代田									7
中央区				1					17
みなと				4		4			60
新宿区				1		3			52
文京						2			26
台東				1					52
墨田区									50
江東区		1							65
品川区				1					140
目黒区				2					20
大田区		2		9			1	1	191
世田谷			1	2					86
渋谷区				3					52
中野区				2					74
杉並				1					97
池袋									8
北区		1		2					59
荒川区									40
板橋区				1			1		52
練馬区				3			2		64
足立							1		33
葛飾区		2		1			1		62
江戸川				5					118
西多摩				2					108
八王子				2		1	1		69
南多摩		1		5					60
町田		1		4		3	2		98
多摩立川				1					44
多摩府中				4			5	1	72
多摩小平		1		12					196
島しょ									10

東京都合計	-	9	1	69	-	13	14	2	2,082
定点当り報告数	-	0.06	0.01	0.49	-	0.93	0.10	0.01	

五類定点把握対象疾患 患者報告数【保健所別・定点当たり】2006年45週

	RS ウイルス 感染症	インフルエ ンザ	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳
千代田					0.75	0.25		0.75		
中央区					3.33		2.00			
みなと			0.67	2.33	5.33	0.33				
新宿区				0.17	4.83	2.17	0.33		0.50	
文京				0.33	7.00			0.67		
台東	0.33		0.33	0.67	12.00	1.33	1.33	0.33	0.67	
墨田区				2.33	12.67	0.33		0.33	1.00	
江東区				1.33	17.00		0.67		2.33	
品川区	0.17		0.17	1.50	19.00	0.83	0.33	0.50	0.67	
目黒区				1.00	3.33	0.67		0.33	0.67	
大田区			0.33	2.22	15.44	0.78	0.44	0.11	0.44	
世田谷				0.25	7.88	0.75	0.13	0.88	0.50	
渋谷区					9.75	1.00	0.25	0.50	0.75	
中野区				2.50	8.17	0.17	0.83		0.33	
杉並			0.83	2.50	11.33	0.50	0.17	0.33	0.33	
池袋					1.20			0.20	0.20	
北区			0.50	2.00	9.00	1.00		0.25	1.25	
荒川区			0.50	2.00	15.00		1.00	1.00	0.50	
板橋区				0.33	6.50	0.17	0.67		0.67	
練馬区				3.40	4.80	0.60	0.80	0.60	1.60	
足立					4.50	1.75	1.25		0.50	
葛飾区				0.25	7.75	2.50	1.00	0.75	2.25	
江戸川	0.50			8.50	16.75	0.50	0.75	0.75	0.50	
西多摩				1.00	17.00	1.40	0.20	0.80	0.80	
八王子	0.50			3.50	24.50	1.00	1.00	2.00		
南多摩				1.00	14.67		0.67	0.67	0.67	0.33
町田				6.50	31.00	4.50	1.00		1.00	
多摩立川				0.17	5.67	1.17	0.17			
多摩府中				0.80	3.50	0.70	0.30	0.20	0.70	
多摩小平	0.50		1.17	1.50	22.83	1.33	0.17	1.50	1.50	
島しょ				10.00						

東京都合計	8	-	24	215	1,399	116	62	57	92	1
定点当り報告数	0.06	-	0.17	1.51	9.85	0.82	0.44	0.40	0.65	0.01

五類定点把握対象疾患 患者報告数【保健所別・定点当たり】 2006年45週

	風しん	ヘルパン ギーナ	麻疹 (成人麻疹 を除く)	流行性 耳下腺炎	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	不明 発しん症	MCLS
千代田								
中央区				0.33				
みなと				0.67		4.00		
新宿区				0.17		1.50		
文京						2.00		
台東				0.33				
墨田区								
江東区		0.33						
品川区				0.17				
目黒区				0.67				
大田区		0.22		1.00			0.11	0.11
世田谷			0.13	0.25				
渋谷区				0.75				
中野区				0.33				
杉並				0.17				
池袋								
北区		0.25		0.50				
荒川区								
板橋区				0.17			0.17	
練馬区				0.60			0.40	
足立							0.25	
葛飾区		0.50		0.25			0.25	
江戸川				1.25				
西多摩				0.40				
八王子				1.00		1.00	0.50	
南多摩		0.33		1.67				
町田		0.50		2.00		3.00	1.00	
多摩立川				0.17				
多摩府中				0.40			0.50	0.10
多摩小平		0.17		2.00				
島しょ								

東京都合計	-	9	1	69	-	13	14	2
定点当り報告数	-	0.06	0.01	0.49	-	0.93	0.10	0.01

五類定点把握対象疾患 患者報告数【年齢階級別】 2006年45週

	RS ウイルス 感染症	インフルエ ンザ	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん
～5か月	1				7	3			5
～11か月	1			1	83	10	5	2	43
1歳	4		2	2	191	17	11	5	38
2歳	1		5	8	141	17	11	3	5
3歳			5	14	139	17	5	5	1
4歳			4	17	114	20	13	15	
5歳	1		1	29	101	10	5	6	
6歳			2	39	83	9	4	7	
7歳			1	37	72	5		4	
8歳			3	19	49	2	1	1	
9歳				13	38	1	3	4	
10～14歳			1	17	103	2	3	3	
15～19歳				2	22				
20～29歳				17	256	3	1	2	
30～39歳									
40～49歳									
50～59歳									
60～69歳									
70～79歳									
80歳以上									
合計	8	-	24	215	1,399	116	62	57	92
先週比	-3	0	-3	21	458	27	-13	20	36

注:小児科定点把握対象疾病のうち、「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

	百日咳	風しん	ヘルパン ギーナ	麻しん (成人麻しん を除く)	流行性 耳下腺炎	急性出血性 結膜炎	流行性 角結膜炎	不明 発しん症	MCLS
～5か月									
～11か月	1		1		1			1	1
1歳			4		6		1	1	1
2歳			1		5			2	
3歳			1		11				
4歳					11			1	
5歳			1		9			5	
6歳					6			2	
7歳					6				
8歳					5		1	2	
9歳					3				
10～14歳			1		4				
15～19歳				1			2		
20～29歳					2		4		
30～39歳							3		
40～49歳							2		
50～59歳									
60～69歳									
70～79歳									
80歳以上									
合計	1	-	9	1	69	-	13	14	2
先週比	1	-2	-8	1	-6	0	7	7	1

注:小児科定点把握対象疾病のうち、「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

病原体・抗体検査情報

週別検出状況 2006年38週～45週

検出病原体・抗体		検体採取週								合計
		2006年								
		38	39	40	41	42	43	44	45	
ウイルス	アデノ	2	6	1	4	1	4	4	3	25
	ライノ				2		4	1		7
	ポリオ							1	1	2
	コクサッキーA群	1								1
	コクサッキーB群			1						1
	エコー		2		1	2	2	3	1	11
	エンテロ71									
	その他のエンテロ	7	4	1	9	6	6	10	6	49
	単純ヘルペス				2					2
	水痘・帯状疱疹								1	1
	ヘルペス6/7	3	1	2	4	1	1	1	1	14
	EB	2	2		1	1			1	7
	サイトメガロ	2								2
	ムンプス	2		2		1				5
	麻疹									
	風疹									
	パルボB19		1						1	2
	RS	1		1		1		3	2	8
	ノロ	18	24	1	6	27	15	43	84	218
	ロタ			1				1		2
インフルエンザAソ連型										
インフルエンザA香港型										
インフルエンザB型										
デング	1		1						2	
その他のウイルス		1	1	1	2			1	6	
細菌	カンピロバクター			1						1
	サルモネラ					1		1		2
	腸管出血性大腸菌	9	8	13		13	7	7	1	58
	その他の腸管系病原菌		2	3			3	2		10
	溶血性レンサ球菌		3	3	4					10
	MRSA			1	2					3
	MSSA		1							1
	その他の細菌									
その他の病原体			5	7	3	2	3		5	25

臨床診断名別検出結果 2006年38週～45週

臨床診断名 検出病原体	インフルエンザ	上気道炎	下気道炎	感染性胃腸炎	無菌性髄膜炎	咽頭結膜熱	A群溶連菌咽頭炎	流行性角結膜炎	ヘルパンギーナ	手足口病	伝染性紅斑	不明発しん症	流行性耳下腺炎	水痘	麻疹	風しん	その他	合計
搬入検体数		43	47	984	30			8		4	3	16	6	1			166	
アデノ		14	2	1				4				1		1			2	25
ライノ		1		3													3	7
ポリオ			1	1														2
コクサッキーA群								1										1
コクサッキーB群					1													1
エコー		1		3	3								1				3	11
エンテロ71																		
その他のエンテロ		12	2	5	11				4		5	4					6	49
単純ヘルペス																	2	2
水痘・带状疱疹しん														1				1
ヘルペス6/7		1	1		1							7					4	14
EB		3		1									1				2	7
サイトメガロ																	2	2
ムンプス					3								2					5
麻疹																		
風しん																		
パルボB19									1	1								2
RS		3	3														2	8
ノロ		1		216													1	218
ロタ				2														2
インフルエンザAソ連型																		
インフルエンザA香港型																		
インフルエンザB型																		
カンピロバクター				1														1
サルモネラ				2														2
腸管出血性大腸菌				4													54	58
その他の腸管系病原菌																	10	10
溶血性レンサ球菌																	10	10
その他の病原体		9	13	2								2					11	37
備考	この表の「その他の病原体」は「週別検出状況」の表にある「デング」「その他のウイルス」「MRSA」「MSSA」「その他の細菌」と「その他の病原体」の合計である。																	

<感染症豆知識>

急性出血性結膜炎

急性出血性結膜炎は、エンテロウイルス70もしくはコクサッキーウイルスA24変異株を原因とするウイルス性結膜炎で、五類感染症定点把握疾患となっています。

1969年にガーナを中心とした西アフリカで大流行が起こり、ちょうどその頃アポロ11号が月面着陸に成功したため、アポロ病のニックネームがつけました。その後、ヨーロッパ、アジアへと急速に流行が拡大し、日本へは1971年に侵入しました。日本でも翌年にかけて各地で大流行が起こりましたが、病態が確認されてからは散発小流行になっています。1990年代には沖縄や大阪で流行がありましたが、最近は発生が少なく、感染症サーベイランス週報でも定点あたり0.1人を割った数字が続いています。

本症の症状は急激に発症する眼痛、充血、眼脂で、眼球結膜（白目）に結膜下出血を起こすことが特徴で、耳前リンパ節が腫れます。潜伏期は1日と短く、片眼で発症しても翌日には両眼になります。有効な治療法はありませんが、約1週間で治癒します。合併症として稀に四肢麻痺を起こすことが知られています。感染力は非常に強く接触感染しますので、家庭や職場内、院内での感染が恐れられています。原因ウイルスは熱と乾燥に弱く、この点を考慮して感染を防ぐことが重要です。

有効な治療法のない未知の急性伝染性疾患が、発達した交通網にのって急速に全世界に拡大したと言う実例です。比較的軽症で後遺症を残さないことが幸いでしたが、これを一つの警鐘として、今後十分な感染症対策を築く必要があります。

(文責・東京都眼科医会 福田眼科医院 福田敏雅)